

# 高次脳機能障害 もしものとき リーフレット

本人・家族・支援者の  
ための 災害時 対応集



作成：リハビリテーション心理職会  
発行：NPO法人 日本脳外傷友の会

# 災害時に対応される方へ

## 「高次脳機能障害」という見えない障害があります

- 事故や病気などで脳が損傷され、話す・考える・覚える・集中する・感情のコントロールなどが難しくなり、生活に支障を来す状態をいいます。
- 身体に麻痺がある方もいますが、一見して障害と分からない方もいます。また、本人が障害を認識していない場合もあります。

## 何度も同じことを聞く！

- 覚えられないため、同じことを何度も聞いてきたりします。
- 自分で言ったことを忘れていることもあります。

- 伝えることを文字にし、いつも見えるようにしてください。
- 絵や図を使って伝えることも取り入れてみてください。

## 並べない、待てない！

- 周りの状況が理解しにくいいため、順番が守れないことがあります。
- 我慢ができないこともあります。

- 具体的に、順番や並び方を指示してあげてください。
- 場合によっては順番を譲ってあげてください。

## 判断できない、パニックになる！

- 自分で判断できない人、場違いな行動をする人がいます。
- 困っていないように見える（時にふざける）人がいます。
- 集団や騒音が苦手な人がいます。

- 必要な行動を具体的に指示してください。
- 混乱しているようであれば、付き添ってあげてください。
- 静かな場所で落ち着くまで見守ってください。

# 高次脳機能障害者が 抱えている問題

## 本人の自覚障害

本人自身も障害に  
気づきにくい

## 感情の障害

すぐ怒る、落ち込む、  
不適切な場面で笑いだす

## 記憶の障害

言われたこと、昔のことを  
覚えていない

## 行動計画の障害

状況に合わせられない、  
計画的に動けない

## 言語の障害

言われたことが理解できない、  
言葉で表現できない

## こだわり

他人の意見に耳を貸さない、  
自分を通そうとする

## 注意の障害

集中できない、気づかない、  
切り替えられない

## 脳が疲れやすい

考えられなくなる、  
ボーっとする、  
イライラする

## 情報処理の障害

情報が多いと混乱したり、  
固まったりする



# もしもの時 に備えて

## 危険 (事件-事故-災害) に あったときのために

### 家族や周囲の人が準備すること

- 地域の人 (近所・民生委員など) にも本人の症状・特性を知ってもらう。
- 本人の症状を説明するカードなどを準備する。
- 普段通っている場所 (作業所・会社など) と、もしもの時の対応を話し合っておく。
- 家族以外にも、もしもの時の対応を任せられる人を決めておく。

### 本人と共に準備すること

- もしもの時の行動 (約束) を決め、カード あんしんカードに記載し、本人が携行する。
- カード あんしんカード に本人の症状や治療薬を説明し、本人が携行する。
- 本人と、もしもの時の練習をしておく。
- 地元 (地域) に居場所を作っておく。
- 家族会や安心できる第三者など、横のつながりを作っておく。

準備ができた項目に☑を入れましょう。